

## 〈事例編の活用について〉

### 1 事例編の構成について

事例編では、九つの「人権感覚育成のための視点」（5ページ参照）ごとに、児童生徒の発達の段階に応じて4プログラムずつ、合計36のプログラムを掲載しています。

全てのプログラムは、「人権教育上のねらい・視点・配慮」の内容項目を設けて作成しています。「人権教育上のねらい」は、人権教育を推進していく上で、人権課題別に各単元や一単位時間の中で目指すことを示しています。「人権教育上の視点・配慮」（16ページ参照）は、その順に、より具体的にねらいを達成するための方針を示しており、一貫して「人権教育上のねらい」の達成を目指せるように工夫してあります。

本プログラムは、人権感覚の育成を目的としているため、ここでは全てのプログラムで「人権教育上のねらい」の人権課題を「普遍的な人権課題」とし、その中でねらいとする「人権感覚育成のための視点」を示しています。また、個別の人権課題に対応した内容のプログラムについては、「1 人権教育上のねらい」に「◇関連する個別の人権課題」として示しています。

### 2 プログラムの実施にあたって

各プログラムに掲載している、対象の校種や学年、関連する教科等、アクティビティーの内容等については、一般的な例として掲載しています。実施する際には、児童生徒や学校の実態に応じて、実施する学年や教科等を変更したり、アクティビティーの内容や時間配分を工夫したりするなど、アレンジをすることが大切です。

また、アクティビティーは、個々に魅力的な活動ではありますが、アクティビティーを実施すること自体がその目的ではありません。ここでは、あくまで人権教育のアクティビティーであることが前提ですので、ねらいとしている「人権感覚育成のための視点」を必ず意識して実施することが大切です。

#### 事例編に出てくる言葉

- ファシリテーター … 「促進者」という意味。本書の場合、アクティビティーを計画、準備し、提示、実践する教師のこと。
- アクティビティー … 学習プログラムを構成するひとまとまりの学習単位、学習ユニット。本書の場合、児童生徒の知識、価値・態度、技能を包括的に発展させることを目的とする現実的な体験に主体的に取り組めるよう考案された学習活動のこと。  
※[第三次とりまとめ]は「アクティビティ」と表記。本書では「アクティビティー」と統一して表記。
- アイスブレイキング … 学習者の「氷のような固まった気持ち」を解きほぐすための活動のこと。
- アサーティブ … 非攻撃的自己主張。相手を攻撃的に、一方的に非難することなく、自分の意見を主張するコミュニケーションの取り方のこと。